



各事業所やフロアーに掲示

永 寿 会 通 信

黄色い飛行船 第3号

2015年 10月19日

湘南まるめろ保育園では8日に専用畑で収穫したサツマイモを、15日（木）に石焼芋にして園児や保育士の皆さんで食べました。皆でお芋をアルミホイルに包んで専用のかまどの上に置き、1～2時間後、掘り出して美味しい匂いから味わいました。

まさに秋の味覚というところです。でも、地方もそうですが、身近なところでも田畑は次第に荒れつつあり、雑草や葛、モウソウチクの繁茂する状態が進みつつあります。なぜでしょうか？そこには日本の農業の深刻な経営状態の歪みがあるからです。農業だけでは日常生活が成り立ちにくい現実があるからで、後継者は都会にサラリーマンとして出て行ってしまい、展望が描けなくなっています。

豊かな農産物を生み出すためには、有機肥料が必要ですが、牛や豚の酪農家、鶏などの養鶏者が劇的に減っており、肥料が補充できなくなっています。臭いも無く、衛生的と言われる化学肥料により生産せざるを得ません。化学肥料を多用するとどうなるか？野菜等の成長や結果（果実がなること）は順調となりますが、病気や害虫には抵抗する力が薄れます。どうするか？殺菌剤や、殺虫剤を多用するしかありません。また、有機生産物より保存がききませんので、様々な対応が必要になってきます。TPP交渉の結果、政府は生鮮食料品の輸入は増えないと弁明しておりますが、農薬に強い遺伝子を組替した生産物や半加工品の輸入は増えるだろうと思います。日本人の生存能力や環境対応力が心配です。

今、若い層の人達の生活の中では清潔さや安全性が非常に貴ばれており、気遣いや滅菌グッズ好まれて使われております。これは有機農産物のあり方と似ているのではと思います。菌や害虫の跋扈（ばっこ）に対する違和感と拒絶性が在りすぎるのではと危惧しています。自然界には人体に良い菌もあれば悪い菌もあり、それぞれが共存してバランスが保たれているのです。過度に清潔な環境では抵抗力や免疫力が育たないと思うのは時代錯誤でしょうか？

人間の消化器官の中には莫大な細菌や寄生虫さえおります。厳しい場合もある環境の中でも元気に暮らせる体幹機能が必要ではないのでしょうか。

生物残渣をゴミとして行政に収集してもらい、多額の燃料費をかけて焼却処分するのではなく、かりん（藤沢）の施設の食材ゴミや残食物は施設周辺の植物残渣と共に堆肥化しています。多少匂いも出ますが、このような全体の考え方を持った趣旨に免じてご理解ください。

以 上